

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2779101803		
法人名	(株)カームネスライフ		
事業所名	グループホーム ここから加島 (2階)		
所在地	大阪市淀川区加島4丁目17番29号		
自己評価作成日	平成27年2月18日	評価結果市町村受理日	平成27年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、利用者一人一人のニーズを大切にしている。                  2、1日のマニュアルにこだわらず、利用者時間に合わせている。たとえば食事時間・入浴時間、入眠時間などをご本人に合わせて考えている。                  3、いつでも食べたい物が食べれる。在宅の生活の延長で、ちょっと手を伸ばせば少しだけ食べたい物があり、飲み物もある。                  4、昼間はどんな方でもトイレ排泄を目指し、実践している</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開所して9年、管理者・ケアマネジャーが交替しておらず、利用者本人を第一とする介護の方向性を共有する職員のチームワークケア、地域との関係性も良好な中で、利用者の穏やかな日々と笑顔が続いている。管理者の豊富な看護師体験から、業に頼らないことに重点を置き、利用者の持つ本来の機能と能力を活かしたケアに努める姿勢は職員にも受け継がれ、迅速で丁寧な優しい介護を目指して努力している。職員が利用者のケアプランに必ず目を通して日々の支援経過を記録する仕組みがあり、個人への気づきがケアプランの見直しにも繋がっており、個別ケアの充実にもプラスしている。加島単体としての予算編成や行事取り組みが、法人へボトムアップで活かされていることは、職員のやる気向上に大きく影響していると考えます。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	加島理念を事務所の入り口に掲げ毎朝ミーティングの後に唱和し管理者、職員が共有するようにしている	「地域に根差し、地域と共に生活できる環境を提供・・」とホーム独自の理念を有し、全職員が共有する中で日々の実践に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に支えられているホームとして町会の掃除、保育所との交流、地域のクリニックとの連携、地域の催しへの参加、消防訓練時の参加などを行っている。また地域での買い物、に庭先お花を見せていただいたりしている	9年に亘る近隣との付き合いは、さまざまな形でその度合いを深め、地域との相互関係が消防訓練時の参加や、庭先のお花見など利用者に良い形で還元されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物などで、近所の方と一緒に話をしたり、民生委員を通じて情報を発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、毎日の食事内容、事故報告や施設内の情報を細かく報告し理解を得るように努めている。又、出席できない方にもはがきで意見欄を作り通信できるようにしている	開催期・構成委員・会議内容共に妥当である。開催案内を全家族に通知し、常に7~8名の参加があり、全家族に議事録を配布している。管理者は会議内容のマンネリ化を憂慮している。	介護・認知症に関する社会的な話題、看護師や薬剤師からの情報や問題提起など、会議に拘らない話題での広がり、地域住民の参加増への工夫に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険や不明な事は区役所の介護保険課に連絡し、情報を得る様にしている。	通常の連絡・連携については良好な関係を維持している。管理者が地域包括ケアシステム会議に参加しており、一層の協力関係を持ち得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の施錠については解放の気持ちはあるが前が道路の為にご家族に説明しつつ拘束について常に研修などを行っている	心身ともに拘束の内容と弊害については理解し、日々のケアについても常に注意し合う職場環境がある。玄関のみ立地条件により施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などを重ねる事により虐待がない様に努めている。施設内での虐待防止委員会を作成し小さな事も皆で注意しあえる様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	入居時にご家族に説明し施設での生活は居宅の延長にあり病院から来られた方にも、できる事を探っている。後見人制度は必要な方には制度の説明をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりと話を聞きながら疑問に答えている。契約の締結が目的ではなくご家族の納得、安心できる状況説明をし、出来ない事はしっかりお伝えし、信頼関係を持ち利用者の方をお預かりしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会の報告は翌日のミーティング、もしくは申し送り時に内容説明をしている。意見などは特に職員に徹底するようにしている。ご家族の意見は面会時、また、意見のを聞いたらすぐに答えが出る様にしている	年1回の家族会、運営推進会議、面会時など、家族との出会いの場面を重用して、遠慮の塊りをほぐす工夫をして意見や要望を聞く努力を重ねている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の疑問点、意見などは細かく注意し聞く様にしている。又、必要時には会社の意見も聞いて必ず返答をしている	毎日のミーティング、月1回の職員会議のほか、随時に意見や気付き、要望が出やすい環境づくりがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無理に内勤務状況と希望に沿った勤務状況を心掛け、職員全員が研修などに参加し、常に気付きを持ってもらえるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は本人に聞いても希望を言わないので、研修申し込みが着た時に順番に調理を含め参加できるようにしている。今後も研修や院内教育を通し各自のレベルアップを図っていく		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム会の出席を出来限りでし、また職員も淀川区内のグループホーム勉強会に参加してもらいサービスの向上につながる様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の望む事用の紙を作り、ご家族に記入をお願いしている。ご家族がいらっしゃらない時はケアマネ、病院関係者から話を聞き、本人にも確認している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できるだけご家族の気持ちをゆくり聞き、介護の大変さや、これからの展望、また御本人に対する要望を聞く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人にどうなっていたきたいか。ご本人の立場にたった支援計画を進めている。希望、必要があればリハビリなどを進めていっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お買い物、日常生活のお手伝いを一緒に行い、また食べたい物なども一緒に考えていき一緒に作る様にしている。ともに楽しい関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には状況報告を毎月行い、来られた時は必ず本人の良いところをお伝えしている。今まで来るまで待たれた息子が、面会時に顔や背中をなでながらお話されるまでにおなっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで住んでいた自宅の周囲に出かけたり、慈しむ方の写真などをいつも見えるようにしている。また、本人の希望を聞き今までの環境が維持できるようにしている	入居歴の違いや重度化により、馴染みへの拘りには差があるが、夫々の事情に合わせた関係継続への支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物を干したりたたむ時、また、日常生活の行動をする時に必ず数名に声かけをし、一緒に話をしながら行っている。又、ソファの位置などに注意し孤立しないような環境作りもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も必ずどうされているのかの確認はしている。時に野菜を持ってきたりしていただいて入りご家族もある。又、残されたご家族が高齢の場合は特に経過を聞く様にしているし、相談にものれるようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に記入できる方があれば本人の思いを書いていただいたり、本人主体のニーズを探っている。起床、就寝時間、食事本人のペースにあった時間を提供している。又、職員が問題を共有し、本人を否定しない様にしている	アセスメントによる情報を基礎に、利用者個々の発信力の有無にかかわらず、日々の接遇のなかでの気づきを疎かにせず、意向や希望の把握に努めている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント時に環境やなじみの暮らしを聞いたり、入居後に生活から今までの生活を知り出来るだけ無理のない様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	長時間同姿勢でいる事のないように配慮している。できる事を無理なく一緒に行う様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の気持ちを大切に、また、サービス担当者会議を開き、多くの意見を聞いて本人の為のプランを作成する様に努めている	定期的に、必要に応じてのアセスメント・モニタリングとケース会議、家族意向を組んだ計画を作成し、見直しを図っている。職員は介護計画を基本に日々のケア記録を取り見直しに繋いでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた記録をするようにしている。そこから現在のプランが本人に沿ったものかどうかを探り見直しできる様にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マニュアルなど時間ごとの業務を決めないで、本人主体の動きの中でサービスが実施できる様にしている。「主になる所は利用者にある」事を実践できるように努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容、近所のボランティアによる習字、買い物、理美容、コンビニ、スーパー、ネットワークを広げ、できるだけ地域の中で過ごしている事をいかす様にしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療では情報を適切に伝え、また異常があれば早めに連絡をとっている。受診も定期的にきちんとできているか確認し、連絡事項をきちんと伝える様にしている	ほぼ全員が協力医をかかりつけ医とし、半数以上が訪問診療を受けている。受診支援も行い、医療連携体制の下、医療面での不安はない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状況はその都度職員に伝え、また職員からの情報はすぐに対応できるように信頼関係をとれるように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にご家族に早急な対応をし、また退院に向けて医療との話し合いを数回行い、ご家族との話し合いにも参加させていただいている。施設での退院を受ける状況を医療にも理解していただいている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについてご家族との話し合いを時間をかけて行い、出来るだけご本人の意思に沿った方向で話をするように努めている。またその経過を職員に徹底し、利用者を最後まで看取るという事を全員で考えている。	契約時の方針確認の下、段階的に家族と医師の話し合いを進め、その意向に寄り沿った介護で重度化対応と看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の訓練、研修を行いいざという時に困らない様に努力している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月夜間訓練をしている。年2回は火災、災害訓練を行いまた、地域に訓練時の声かけをするようにしている	連絡、初期消火、誘導と夜間訓練の度の気づきを確認し、個人差を無くす努力をしている。通所と合同での訓練で10人ほどの町会からの参加を得ている。備蓄、防災グッズの用意がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前で排泄の事などを口にしないようにしたり、声かけ時、否定せずきずつけないようなこえかけをするように努力している	個々の生活歴なども考慮し、慣れや親しさを混同しない接遇を必須とし、常時に注意しようよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	側に寄り添い自由に行き来できる空間を作り、希望を聞く様になっている。本人が嫌がる事は無理にしないで自分で決めた事が出来る様に支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間ごとのマニュアルを作成しないで、ご本人の生活に合わせて支援する様にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日お化粧をしている人はお手伝いをし、着る物も関心を寄せた声かけをするようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	海苔巻、豆の皮むき、お好み焼き、茶碗洗い、餃子作りなど出来る事は一緒にお話をしながら作るようにし、後片付けもしている	食材業者の献立を選別し、週2～3回は旬の物、冷凍でない物での手作りを心掛けている。利用者が台所から遠ざからないよう、一緒に食べる美味しさ楽しさを持つよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取量が少ない方には無理をしないで少量ずつ本人が飲めるものを準備している。食べれる物をいつでも食べれるような工夫もしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔毛を徹底はなかなか困難だが、今後の課題でもある。お茶を引用したり口腔清拭をしたりしながら出来るだけ清潔に保てるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間はどんな方でもトイレ誘導を試みている。昼間布パンツを使用したり、かゆみのある方に無理にリハビリパンツなど進めない様にしている。	出来るだけ自分で用を足すように支援し、排泄時の様子からの気づきをケアに活かし、利用者個々人の排泄障害からの精神的負担を無くしたいと努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、芋類の食べ物や毎朝の牛乳など工夫はするが便秘の方には薬調節も考えて個々に応じて進めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間入浴を好まれる方には時間の調節をしたり、拒否の方には無理をしないで本人の状態に合わせて入浴を進める様にしている	週3回を基本に、1回ごとに湯を入れ替えて個々に沿った入浴支援を行っている。重度者には階下の通所にある特殊浴を利用している。夜間の失便にも即時にシャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者によっては、昼間に休憩時間を作り生活を楽に過ごせるように工夫している。夜も消灯時間を作らずテレビを見たりお茶を飲みゆったりできる時間を作っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は加島入居後かなりの数が減量になり、安定剤の服用も少なく、眠剤使用者は全くいない。副作用の把握もそうだが、薬のコントロールで変化するのか、高齢によるものか小さな事に注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タバコ、ビールなど本人の希望を聞いて、いつでも提供できる様にしている。食事も好みに応じて内容を変えたり、その人にあった方法を考える様に努力して。お買い物、散歩、お話などもケアプランに入れいかしている。今までの生活の延長が出来る様に支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法要にご自宅まで出かけ、車椅子から座れるように支援している。遠足、外食、お花見等季節には必ず出かける様にしている。ご家族にも声かけをして一緒に楽しむ時間を持ってもらっている。	重度化に伴い日常的な外出の常態化は難しくなりつつあるが、月命日ごとに帰宅する利用者もあり、一人ひとりの状況に応じたの散歩・買い物・外気浴の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物に行き、自分で払いたい方はご自分で払ってもらっている。ご家族の納得の元自己管理している人もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書ける様に準備をしている。電話もいつでもかけられる様に配慮している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも清潔に、花などを飾り過ぎしやすいように工夫している。特にお花は毎月季節の花を飾り自分でも活けて貰い、今を感じてもらう様にしている。光は調整しながら過ごして貰っている	ゆったりとした空間に、食事ペースと団欒ペースが配置され、机上の花々と適度な飾りつけで季節感や生活感がある。9年を経過する落ち着いた雰囲気の中に、車椅子利用者への気配りもあり、全体に居心地の良さが窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置を変えたり、ベランダにいつも座れるように椅子を置き外が見えるようにしたり工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族の希望やご本人が使用していた物を中心に気持ち良く過ごせるようにしている。時に自分で片付けをされ、何にもない時ご家族に説明し、本人の納得いくような環境作りをしている	板敷き、畳敷きと夫々の馴染みの品々で整えられ、ホームでの生活歴が伝わる個性ある居室風景である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターは自由に仕様できるようにし、階段も利用できる方は止めるのではなく、見守りをして自立できるようにしている		